

ここに注目！



新たな特色あるイベント実施による活性化

ポイント

鳴門市大道商店街では、100円商店街の開催にあたり、事前にワークショップを重ねることで、組合員の意識改革に成功した。また、地元の小学生が模擬株式会社を設立し商売体験をする「ジュニアエコノミーカレッジ事業」や事務椅子を使い商店街内を走り続ける耐久レース（いす-1GP）なども実施し、にぎわいを創出している。

[現状分析及び課題抽出]

Plan

継続的な顧客の獲得に向けて

近年における大型商業施設の進出や近隣スーパーの廃業に伴い、商業競争はより厳しい状況となっている。当該商店街においても空き店舗等の問題が顕著となってきており、商店街の活性化は急務となっている。これまでの納涼市等定期的なイベントの開催だけでは継続的な顧客の獲得にはつながらないと考えられるため、各商店の販売促進へ向けた事業を行う必要がある。

[対応策の優位性]

Do

特色あるイベントの実施

当該商店街では、昨年度より100円商店街を5月・11月の年2回開催している。また、事務椅子に座って商店街を走り続ける耐久レースとして「いす-1GP」や地元小学生が模擬株式会社を設立し商売体験をする「ジュニアエコノミーカレッジ事業」も合わせて実施することで更なるにぎわい創出へとつなげた。「ジュニアエコノミーカレッジ事業」では、収益の10%を税金（納税体験）として納めてもらい、東日本大震災義援金として日本赤十字社に寄付を行う等の社会貢献の取組も行っている。

今後も、各種取組を行い継続的なにぎわい創出を図り商店街の活性化を目指すこととしている。

基本データ

鳴門市大道商店街振興組合

所在地:徳島県鳴門市撫養町

人口:約6万人(鳴門市)

会員数:33名

店舗数:27店舗(買回品小売店10、最寄品小売店5、飲食店4、サービス店5、その他3)

商店街の類型:近隣型商店街

主な客層:高齢者、主婦、会社員

関連 URL:<http://omichi.naruto-mon.jp/>

商店街概要

当該商店街は、昭和48年に鳴門市初の商店街振興組合を設立し、販売促進事業として納涼市や大売出し等を実施してきた。昭和50年に入ると狭い道路を広げ、昭和52年には220mのアーケード整備とカラー舗装を行い、名実共に鳴門市一の近代的な商店街となった。現在では、飲食店や小売をはじめ病院や歯科医院、銀行等他業種にわたり商業力を有する商店で構成され、地域住民へ多くのサービスを提供し、地域に支持される商店街として確立している。



にぎわい創出を図る「100円商店街」などの取組

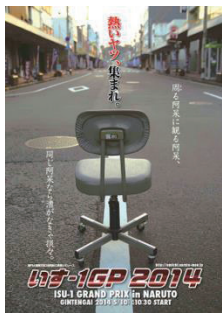
[効果の評価及び改善策]

Check-Action

商人としての意識改革

100円商店街の開催にあたり、事前のワークショップ等を重ねて行うことで同組合員の商人としての意識改革を行うことができ、開催時には毎回約5,000人の集客力をあげることができたものの、一方で継続的な顧客獲得へとつながっていない現状にある。

今後は、「得する街のゼミナール(=まちゼミ)」事業の実施により各商店の販売促進へ向けた取組も合わせて行い、当該商店街の活性化を図ることとしている。



[実施体制等]

孫世代の若手を中心とする実行委員会

同組合には青年部や女性部は存在しないが、当該商店街で行われるイベント等の事業においては、孫世代の若手が中心となり実行委員会を立ち上げるなど積極的な活動を行っている。



孫世代が中心となり、継続的な顧客獲得・活性化へ取組



キーパーソン

鳴門市大道商店街振興組合
理事長 中岸 修平

組合員の絆

鳴門市大道商店街は、JR 鳴門駅近くにあり、アーケード沿いに40以上の建物が連なる「市内で最も近代的な商店街」として栄えてきました。しかし、近年では来街者の減少や後継者不足、空き店舗の増加という問題を抱え、現在営業している店舗は26店舗となっています。

これまで、本商店街の恒例イベントといえば、毎年7月に、商店街を歩行者天国化し、ライブやイベント、ゲーム大会等を行う「納涼市」のみでした。私が、この納涼市の実行委員として参加させていただいたのは、19年前で、当時20代であったこともあり、他の若手店主や後継者を実行委員へお誘いし、納涼市を盛り上げていたことを覚えています。今で

は、このつながりがあったからこそ、商店街店主達との横のつながりを深めることができたと思っています。

この絆を下地として2年前より、「100円商店街」や「いすー1GP」、「ジュニアエコノミーカレッジ」、「まちゼミ」など様々な事業を実施させていただきました。事業実施前には、講師を招き、事前のワークショップ等を行うことで組合員の更なる意識統一を図っています。

にぎわいある商店街を目指して

しかし、これら事業は、あくまで目的を達成するための手段にすぎません。それぞれの事業開催をきっかけに、この「大道商店街」に興味を持ち、知ってもらうことが本来の狙いであり、知ってもらうことで、店と客とのつながりが深まり、それぞれの店が元気になる、そして、にぎわいある商店街が後の世代にもつながっていくと考えます。

今後は、商工会議所や市等との連携を更に密にし、これら事業を継続的に実施するとともに新たな事業にもチャレンジし、また、事業終了後には、皆で検証するなど、組合員一丸となって、更なる商店街の発展を目指していきたいと考えています。